



「朝鮮人追悼碑」撤去 信頼損ねる 意見数集計せず「県民は理解」!? 酒井県議が一般質問



(上) 撤去される前の追悼碑 (下) 跡形もなくなった追悼碑跡



酒井宏明県議は2月22日、本会議の一般質問に立ち、県立公園群馬の森（高崎市）の朝鮮人追悼碑「記憶、反省、そして友好」の強制撤去問題を取り上げました。

まず、抗議・反対の意見をどう受け止めているのかの質問に知事は、意見数を集計していないとしつつ、「今回の行政代執行は設置者の条件違反によるもので、司法の判断を踏まえたもの。大多数の県民には理解していただいている」と強弁しました。

酒井氏は、最高裁判決も撤去まで命じているわけではないと反論。県内外から寄せられたメッセージの一部を紹介しつつ、群馬の森を訪れた際、跡地には花が供えられ、チマチョゴリをかたどった折り紙も置かれていたとして、「日本に強制的に連れて来られ、強制的に働かされた朝鮮人労働者、その遺族の慟哭が聞こえないのか。碑の建立に尽力した人たち、碑を守ろうとしてきた人たちの悲しみ、悔しさ、無念さに思いを馳せたことがあるのか」と迫りました。

韓国紙の報道にみられるように、碑の撤去はすでに国際問題になっています。しかし知事は「そうした認識はもっていない」と否定。酒井氏は、歴史学者のラインハルト・チェルナー

氏（ドイツ・ボン大学教授）が「追悼碑が撤去されることは、日本が歴史的責任を否定し、日韓関係を故意に損ねる行為と見なされるだろう」と発言したことを紹介し、知事の認識は甘すぎると批判しました。

歴史修正主義には断固たる態度を

自民党の杉田水脈衆議院議員が X（旧 Twitter）で「嘘のモニュメントは日本に必要ありません」などと投稿したように、追悼碑の撤去を主張する人々は、碑文の内容が反日的であり、事実ではないなどと主張してきました。酒井氏は、「碑文に誤りはない」という知事の立場と矛盾する発言に対しては、抗議や撤回を求めるべきだと追及。知事は「個人としての信条を発信されたもの。撤去によって、過去の歴史を否定・修正するという意図は全くない」と居直りました。

酒井氏は、村山談話や日朝平壤宣言の立場で、歴史修正主義に対しては断固とした態度を示すことが大事だと指摘。「追悼碑を残して対話を続けることが大事だったのに、あまりにも撤去を急ぎすぎた。そのことを“記憶”、“反省”しなければ、群馬県は諸外国との“友好”を築けない」と強調しました。関連して、ヘイトスピーチ禁止条例の制定や、県職員採用試験における国籍条項の撤廃についてもた